

強相関電子系金属酸化物の精密3次元ナノ構造創製

Fabrication of 3D nanostructures based on strongly correlated transition metal oxides

研究分野
Departmentナノ機能材料デバイス
Functional nanomaterials and nanodevices研究者
Researcher田中秀和 服部 梓
H. Tanaka A. N. Hattoriキーワード
Keyword3次元ナノ構造、機能性酸化物、相変化、ナノテンプレート
3D nanostructures, functional oxides, phase change, nano template応用分野
Application3次元ナノ機能デバイス
3D nano functional devices

研究開発段階

基礎

実用化準備

応用化

背景

強相関電子系金属酸化物は、金属-絶縁体相転移に伴う抵抗変化が劇的で 10^3 - 10^5 にも及ぶためナノエレクトロニクスへの展開が期待されています。しかし、金属酸化物は一般的に難加工材料のため、100 nmを下回るサイズの構造を作る技術が確立されていません。

概要・特徴

トップダウンとボトムアップを組み合わせた独自のナノ構造創製技術により、サイズ制御精度10nm以下で金属酸化物の3次元立体造形技術を確立しました。

技術内容

傾斜パルスレーザー堆積法 (PLD) 蒸着により、基板上に作製した3次元テンプレートの側面に成長起点を誘導し、テンプレート側面から分子層厚さ精度でサイズ制御したナノ構造を作製する手法を開発しました。テンプレートの形状、配置情報を正確に転写し、かつリソグラフィ分解能に縛られず分子層レベルでナノ構造のサイズ制御が可能であり、基本的にすべての物質に適応できる手法です。

立体基板の側面構造を原子レベルで観察・制御する手法も確立しており、これまでの加工、造形、構造評価技術の次元性と精度を大幅に向上した立体ナノ構造創生技術です。

社会への影響・期待される効果

ナノ細線試料では薄膜に比べて 10^3 - 10^6 倍もの急激な金属-絶縁体相転移に伴う抵抗変化を発見し、その起源が制限空間内に閉じ込められた電子集団の生成・消滅挙動に起因することを明らかにしました (ナノ構造増感効果)。

極限ナノ構造によるナノ電子相への直接アクセスの可能性を秘めており、人為的な相転移現象の機能化の方法論確立に向けて研究を進めています。魅力的ではあるが操作が難しく、これまでポテンシャルが充分に引き出せていなかった強相関金属酸化物に対して、機能発現の起源を解明し、物性操作法の確立が期待できます。

【論文 Paper】

- [1] Nano Letters 15 (2015) 4322-4328.
[2] Nano Lett. 19(2019) 5003-5010.

